

緑風

学校だより第5号
令和6年3月22日発行



「歩みを止めず 仲間とともに 前へ！」

校長 田 中 敏 春

令和5年度を振り返ると、全校生徒はわずか5名と少ない人数で新学期がスタートしました。着任して間もない私は、新入生がいなくて、3年生4名、2年生1名の5人で学習活動はできるのか、生徒間のコミュニケーションは大丈夫なのかなど、多くのことが心配であったことを思い出します。

しかし、私の心配はすぐにはなくなりました。学校や寄宿舎での生活を楽しみにしている姿や毎日の笑顔に接するとともに、多くの学習活動は5人で行い真剣に取り組んでいる姿や、個別の課題に応じて個別指導にしっかり取り組んだりする姿を見て、生徒数の問題はなく、しっかり学びに向かっている生徒に安心させられたことを覚えています。

さて、新型コロナウイルス感染症により様々な制限を受けていた学校の教育活動は、昨年5月の新型コロナ5類への移行後からその制限が解消され、感染症対策についても各自が適切に判断し行うなど、自らの判断やそれに基づく適切な行動が求められるようになっていきます。

本校での教育活動も「安心と安全」をキーワードに、いろいろな制約を緩和して、様々な活動ができるようになってきました。こういった変化の中、卒業後の「自立と社会参加」を目指しこれからの時代を生きる人として、人とのつながり、人との対話、人とともに取り組む楽しさや喜びを知るなど、「人」の大切さを改めて体験的に学ぶことが必要と考えます。

人工知能やICT、SNSなどが発達し、とても便利なツールとして活用できても、「人」とのつながりは、地域社会で生活する上で必要不可欠であり、この先も変わらないと思います。そのような中、時代や社会情勢、求められる資質、能力が変化しても、変わらず大切なもの（健康、体力、道徳性など）と、変化と多様性に柔軟に対応できる力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力）が求められます。この「不易と流行」を人とのつながりを通して、主体的にそして体験的に学び続けることが大切です。

令和6年度は新1年生7名が入学し、全校生徒8名で新学期がスタートします。新たな仲間とともに、生徒・保護者・教職員・地域（人と人）がつながり、学ぶことの意味と価値が分かり、日常生活とのつながりを大切にしながら、共に学び合い共に歩みながら、前へ進んでいきましょう！



1 年 を 振 り 返 っ て



令和5年度は入学者がいなかったので全校生徒は5名でしたが、今年も先輩達と一緒に学ぶ機会が多くあり、一年間元気に、笑顔で明るく過ごすことができました。先輩方に感謝です。この一年で先輩との関係はさらに深められ、先輩達を気遣ったり、思いやるといった言動や態度が度々見られました。一緒に行った見学旅行では、一緒に乗った飛行機、一緒に食べた食事、一緒に体験した夢の国のことなど忘れることのできない思い出になったはずで
す。そんな貴重な経験を共に積んだ3年生が卒業し、4月からはいよいよ新入生を迎え、最上級生になります。この2年間で培ったコミュニケーション力を大いに生かして、笑顔が溢れる明るい学校になるようにリードして欲しいと思います。そして、来年の3月には堂々と胸を張って卒業できるように私たち教師一同支援していきたいと思います。一年間、保護者の方をはじめご理解・ご協力をいただいた皆様に感謝し、一年の振り返りとさせていただきます。

(2学年 服部幸次)

寄宿舎から

今年度は、生徒たちが楽しんで行えることを日々模索しながら、実行した1年となりました。今まで利用したことなかったお店に出向いたり、鹿の谷のトロッコを体験させていただいたりと夕張のいいところをたくさん発見することができました。また、放課後、毎日のように白熱していたソフトバレーボールでは、お互いを尊重しながら、学年を超えて協力することの大切さを学べた機会となりました。

さて、4月から2年生は、最終学年となります。社会人になるまで、残り少ない期間となりますが寄宿舎での生活を通して、今後の大きな飛躍を期待しています。



(寄宿舎：小宮百奈)

～転出の職員紹介～

【転出】

教頭	増田 望	(新任校：手稲養護学校三角山分校)
教諭	中島 功貴	(新任校：札幌高等養護学校)
専門寄宿舎指導員	野本 哲也	(新任校：拓北養護学校)
専門寄宿舎指導員	手塚 里美	(新任校：余市養護学校)



皆様からのたくさんのご支援を賜り、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

